

# ASAOKURA

## 小中高生のための

# 税友あさくら

甘木朝倉地区税務連絡協議会

第57号

平成29年  
12月



小学生の税に関する  
絵はがきコンクール  
第10回 優秀作品

※この作品は平成29年1月の受賞作品です。

志波小学校 6年  
高橋 夏美さん



金川小学校 6年  
永野 由美香さん



立石小学校 6年  
小西 優里奈さん



中牟田小学校 6年  
松尾 そらさん



福田小学校 6年  
木林 涼夏さん



甘木小学校 6年  
鬼塚 愛莉さん



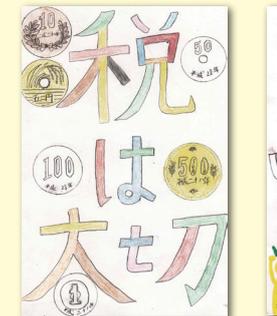
蟻城小学校 6年  
中園 美織さん



立石小学校 6年  
河上 愛佳さん



朝倉東小学校 6年  
井上 満奈未さん



甘木小学校 6年  
石丸 海渡さん



中牟田小学校 6年  
税田 夏碧さん

考える 税 11月 11日(土)~17日(金)

## 高校生の優秀作文

### ★甘木税務署長賞

#### 「安全安心を守る税金」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 田中 美優

### ★福岡県久留米県税事務所長賞

#### 「ヒーロー」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 東 峻誌

#### 「税金について考える」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 大山 明莉

### ★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

#### 「日本と世界を守るため」

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 手島 綾香

### ★朝倉市長賞

#### 「税金にお世話になる」

福岡県立 朝倉高等学校  
一年 田中 日菜

### ★公益社団法人 甘木朝倉法人会会長賞

#### 「自分の体験を通して気付いた事」

福岡県立 朝倉光陽高等学校  
一年 小嶋 歩菜

## 中学生の優秀作文

### ★甘木税務署長賞

#### 「『税』について知った上で考える」

朝倉市立 十文字中学校  
三年 篠原 爽馬

#### 「税が作る社会」

朝倉市立 南陵中学校  
三年 飯田 彩香

### ★福岡県久留米県税事務所長賞

#### 「ふるさと納税」

朝倉市立 甘木中学校  
二年 武内 智怜

### ★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

#### 「私たちの暮らしと税金」

朝倉市立 秋月中学校  
三年 松木 穂乃果

#### 「子どもと税金」

筑前町立 夜須中学校  
三年 大楠 美音

### ★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

#### 「税のありがたみ」

朝倉市立 南陵中学校  
三年 高良 百慧

### ★朝倉市長賞

#### 「可能性を広げる新しい道」

朝倉市立 甘木中学校  
二年 早野 瑠唯

### ★筑前町長賞

#### 「私たちと税金」

筑前町立 夜須中学校  
三年 角田 結梨

### ★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

#### 「ふるさとへの応援」

朝倉市立 十文字中学校  
三年 中島 璃香



#### \* 高校生の作文

甘木税務署管内の高校より、四一六編の応募があり、その中から六編の作品が入選しました。

#### \* 中学生の作文

甘木税務署管内の中学校より、八五一編の応募があり、その中から九編の作品が入選しました。

# 高校生の優秀作文

★甘木税務署長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 田中 美優

## 「安全安心を守る税金」

私は正直、税金と聞いて良いイメージをもっていませんでした。しかし、そんな私はあるできごとをきっかけに税金の大切さについて実感することができました。

二〇一七年、七月五日。この日は、私が住む福岡県朝倉市、東峰村や大分県日田市に、とても大きな被害をもたらした九州豪雨が起きた日です。たまたま私の家の周りでは被害がありませんでした。しかし、母が勤めている職場の近くは被害が大きく、ひどくなった雨を察知し、早めに職場を出てきたのにも関わらず、その日母は、車で一泊するという事態となりました。家族みんなが母が帰ってこられるか、心配で心配でとても恐い思いをしました。幸い母は、次の日家に帰ってくることで済まし

た。しかし、テレビで流れる被災者の中に、自分の知り合いが映っているのを見ると、とても苦しくなりました。

そんな状況を見て、私は災害のボランティアに参加することになりました。変わり果てた街並み、土砂が流れこみ、生活していたのが分からなくなっているような家を見て、言葉を失いました。そしてもう一つ私の目に映ったのは、休むことなくあちこちで働いている自衛隊の方々でした。私達が積んだ土砂をもっていく作業などどこを見ても自衛隊の方が働いている状況でした。考えてみると、テレビで被災した方が救助されたり、救助するためにヘリコプターを飛ばしたりしている映像には、いつも自衛隊の方々の姿がありまし

た。そしてこの自衛隊は、私が悪いイメージをもっていただけ、税金によって動くことができていたという事に気づきました。

ものを買うのにも消費税を払わなければならぬという悪いイメージしかもってなかった私ですが、九州豪雨での自衛隊の方々を見ることにより、税金とは、私達が被害にあったときに、助けられるとても必要なものであるということに気づきました。税金があるからこそ、みんなの安全や安心が守られているということ、身

にしみて実感しました。

おそらく、私達の周りにも、以前の私のように、税金に対して良いイメージをもっていないという人がたくさんいると思います。だからこそ、もっと色々な人達が、身近なところにある税金の使われ方に気づいて、税金の大切さ、ありがたさについて実感していくことが大事だと思います。そして、もっと自分自身も税金について学び、その大切さにもっと気づいていきたいし、しっかり税金を納めていきたいと思えます。



## ★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 東 峻誌

## 「ヒーロー」

税とは何か。僕は今まで考えたこともなかった。授業で「日本国民が必ず納めなければならぬもの」や、「税金は国民のために使われる」と習ったけれど、具体的にどう使われているか調べたり、考えたりすることはなかった。しかし、ある出来事がきっかけで税金について考えることになる。それは朝倉市や日田市を中心にした九州北部豪雨である。

私は朝倉市にある朝倉高校に通っている。いつも通り授業を受けていると、急にとても激しい大雨が降ってきた。初めは、「すごい雨やねー。」と、ただの通り雨だとみんな思っていた。しかし、その雨は勢いを弱めることなく降り続けた。私が通学に使っている電車が運行休止になったのをきっかけにその日の

部活動は中止になった。みんな帰宅しようと、それぞれバス停や駅へ向かうと次々にバスや電車が運行休止になった。私は運よく車で帰ることができたけれど、友達に連絡をとると停電が起きたり、家に帰ることができない人も少なくなかった。突然、私たちの日常が奪われた。

それから十日ほど経って、私は被害の大きかった地域の復旧活動を行うボランティアに参加した。そこは大量の土砂と流木で埋めつくされていた。とても生活ができる空間ではなかった。ボランティアから帰るバスで、被災者の方々がどこで暮らしているのか気になって、調べてみた。すると、国や県、市町村などが税金を使って家を無料で貸し出していることが分かった。他にも断水が起きている地域に給水車を送ったり、自衛

隊を派遣してくれたり、様々なことを税によって行っていることを知った。そして、税というものの大切さを初めて体感した。

税というと、商品を買うときに値段が高くなったり、デメリットが多いと思っていた。

しかし、それは間違いだった。事件や事故が起きたらすぐ警察が無料で来る、大きなけがをしたら無料でかけつけて治療してくれる、これは、あたりまえのようだけれど、税がなければあたりまえではなくなる。そして、災害などが起きて困っているときにも、税は

私たちを助けてくれる。税は私たちにとってヒーローだ。そして、その税を納めている全ての人がヒーローだと思った。



## ★福岡県久留米県税事務所長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 大山 明莉

## 「税金について考える」

私は税について、日頃あまり何も考えずに過ごしています。正直、税の事をくわしく知りません。身近な税は、買い物をする時の消費税ぐらいで、「こんなに払

わなくちゃいけないの？ 払うのお小遣い減るからいやだ。税金なんて、なくていいのに……」と、いつも思っていました。

税金が何に使われているのか、

私たちの暮らしに、どのように関係しているのか、そんな事も知らず、知ろうともせずにはいました。それは、きっとこの先も何も変わらず、「消費税なんて高い。払うのいやだ。」と思い続けるものだと思います。

夏休みを目前にした七月、九州北部を豪雨が襲いました。その日は、下校時刻が早目になり、いつもより三十分程早く、バス停へ向かいました。帰る頃には、雨のピークを少し過ぎてはいましたが、道路は冠水しバスも遅れていました。朝の天気予報で、雨が降る事はないと思っていて傘も持たず、友人に入れてもらいバスを待ちました。

下校時刻が早まり一斉下校になった事で、バス停は沢山の人の列ができ、運よく乗れたバスが結局、学校から家へ帰れる最後のバスになりました。三十分弱で目的のバス停へ着くはずが、だんだんと強くなる雨で濁流の中を一時間半程かけて、到着する事ができました。

帰宅し、家に帰ってテレビ等での情報を見ると、いつも通学する

道には大量の木材や土砂が流れ込み、家は押し潰され行方不明者が多数でていました。それから、救助や行方不明者の捜索、連日の警察や消防、自衛隊の方々の働きを間近で見る事で、私達の暮らしにとっても重要なものが見えてきました。

「税金」です。今回の豪雨被害額は、二千億円を超えと言われています。命を守る為に危険な場所へ救助や救出に向かう、警察や消防、自衛隊。被災者を支える多くの機関やその職員の方々、沢山の人の力が必要です。

豪雨から一ヶ月以上たった今も、被害の全体はわかっていません。収入を得る為の畑や果樹園も流され、住む家を失った方も沢山います。又、地区すべてが住めなくなってしまう所もあります。生活を再建し、元のような豊かな場所をとり戻す為、大切な税金が必要になってきます。

自分には関係ないだとか、払いたくないだとか思っていた事が恥ずかしいと思えました。

働いて税金を納め、それが社会の為に使われていく。それは誰か

の為だけではなく、自分自身の為であると、今回の豪雨で考える事ができました。

私は今、高校生です。将来は大学へ進学し就職して働いていくと思います。その時、自分が働いて納めた税金が、正しい使われ方をして、社会に貢献できるようにしたいと思います。その為に学び、知識や視野を広げて行きたいと思えます。

★甘木朝倉地区税務連絡協議会 会長賞

福岡県立 朝倉東高等学校  
一年 手島 綾香



「日本と世界を守るため」

私は、税をもっと増やすべきだと思います。なぜなら、今現在日本はほとんどの人が知っている通り、少子高齢化社会になり国の歳入額が減少する一方で、社会保障関係費が増加しており、歳出が歳入より多いつまり、国を会社とすると赤字経営が続いている状態を示します。よって、会社を経営するためには、借金をするほかありません。その借金が、国

でいう公債金です。借金には、利子が必ずつきまします。もし、利子が少ないまたは、付かなかつた場合、誰もお金を貸そうとは思わないでしょう。そこで、国でも利子を付けています。ということで、国の借金は増え続けているのです。もしこのまま、公債金が増え続ければ、借金を返すために、公共サービスや公共施設の利用が、できなくなる可能性があります

ます。つまり、社会保障関係費で行われていた、年金や医療、介護などのサービスが、行われなくなり、自費で行うのは負担が、大きくなります。そうすると、病院を受診したり、生活ができなくなった結果、日本の人口がもつと、減少していくのではないかと思えます。また、冒頭でも述べた通り、少子化で働き手が減少し、税金を納める負担額がさらに、増加していきます。そして、この悪循環にはまっていきついには、日本という国が存続するのか、あやふまれます。もしも、日本という国が存在しなくなれば、世界の均衡が崩れて、世界中が争うようになるかもしれません。日本は、それだけ存在がある国だと思えます。

だから、前でも述べた、年金や医療、介護が行われなくなり自費負担になることや、少子化で、働き手の減少により税金を納める負担額が増加することを少しでも防げるように、今から税率を上げることが良いと、私は考えます。人間は、必ず歳を取ります。だから、歳を取った時のことを少しでも考えずに、今だけを考えて生き

ていくことは、無謀なことだと思います。だから、今だけを見るだけではなく、未来のことを考える必要があるのでは、ないでしょうか。



## 「税金にお世話になる」

★朝倉市長賞

福岡県立 朝倉高等学校

一年 田中 日菜

これまでに私は、「税」についてたくさん学んできた。そして学ぶたびに、「税」について考えてきた。

先日、私の通う朝倉高校がある、朝倉市は豪雨にみまわれ、周辺地域は原形を留めないほど姿を変えてしまった。川はいくつも氾濫し、昨日まであたり前であった家や道路は大量の水と土砂に埋もれてしまった。私の住んでいる場所は、被害のあった地域から離れていたため、私はその光景を直接、目で確めたわけではない。私がこれらの光景を目にしたのは「SNSの写真上」だ。たくさん凄まじい光景を捉えた写真の載る記事の中で、私の目にとまったのは、老人が自衛隊によって救助されているものだった。その記事には、「自衛隊を税金の無駄遣いなどと言ってる連中が自衛隊はナ

ニやってんだ！早く救助に行け！などと騒いでいるがお前らに言われなくても自衛隊はちゃんとやってるから」と書いてあった。

私はここで初めて「自衛隊の活動資金は、税金である」ことを知った。こんなにも必死に、命を懸けて活動している人達がいることに初めて気づき、今まで税についてきちんと理解できていなかったのか、と恥ずかしくなった。

今回、災害というものを身近に体験し、自衛隊という存在に税金が関わっていることを知り、改めて私達のために税金を払ってくれている周りの大人に感謝した。この豪雨で、自衛隊に助けられた人々が多いと思う。それは、まだ完全に復興するまでも続くと思う。

SNSには、自衛隊へ向けた感謝の言葉を綴った投稿もたくさん

ある。「自衛隊を税金の無駄遣い」と言っている人に教えてあげたい。

やはり税金は、私達の生活に深く関わり、そして役に立たないものはない、と考えさせられた。学校、病院、政治、災害救助。将来的に、自分も支払うようになっていくのだから、今の私は「税金」にとってもお世話になっていく。これから、財政が厳しくなると増税が続いても、私はそれを払えるような大人になりたい。今の自分が安心安全で暮らせている恩返しとして。

また今回も、税について学び、考えられてよかったと思う。



★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

福岡県立 朝倉光陽高等学校

一年 小嶋 歩菜

「自分の体験を通して気付いた事」

私は今まで税金が上がる事が嫌でした。買い物をする時と税まで余分に払わないといけない。それは大きな買い物をする時、小さな買い物より多くの税を払わなければいけません。それが私は嫌でし

た。ですが、その考え方を変えてくれる出来事が起こりました。九州北部豪雨です。あの豪雨の時、私は家にいました。五年前の大雨の時、川は氾濫したけれど家はなにも被害はありませんでし

た。道もきれいに工事してもらっていたので今回の大きな災害になる前は「大丈夫だ。」と思っていた。でも川の水量はどんどん上がってきて、道路は川みたいでした。その後は、家の中にも水、土砂、材木が家の中をいっぱいになりました。それでも、ひいばあちゃん、おじいちゃん、おばちゃん、私は生きていたのです。私以外の3人は皆七十歳以上です。ひいばあちゃんは九十二歳でした。私しか助けに行けませんでした。私はその時逃げたので助かりましたが3人は亡くなりました。救助される時、多くの消防の方、自衛隊に本当にお世話になりました。税金があるから今回のような災害の時に助けてもらえるんだと心から思いました。だからこれから大人になったら責任をもって税金を払っていきたくです。税金を払っていない人もいます。東日本大震災や、今回の災害。これからもかならず災害は起きると思います。だから、その時のためにも、一人ひとりがしんげんに考える事が絶対必要です。誰でもが

起こりうる問題だと思いません。そのためにも、就職してお金を払っていききたいです。私は将来介護関係に就きたいので勉強をおこたらず、しっかりと自分の夢と希望を持って生きていきたくです。最後に災害は人の命もうぼうという事が分かりました。亡くなった3人の分まで気持ちを強く持ち、誰にでも優しく、いけない時はいけないとしっかり言える人になりたいです。皆に税金をきちんと払ってほしいです。



# 中学生の優秀作文

★甘木税務署長賞

朝倉市立 十文字中学校

一年 篠原 爽馬

## 「『税』について知った上で考える」

日常生活の中において、関わることはまず避けられない「税」。しかし、いざ「税の作文を書け」と命じられると、全くと言っていい程に構想が湧かない。その理由はわざわざ深く考える必要もない位に分かり切っていて

要するに私は税についてあまりにも無知で、かつ無関心だったのだ。故に私は、今課題を非常に良い機会だと捉えることにした。ここの日本の国民として生きていく上で、必要不可欠な税についての知識を得るために、極めて真剣に今課題に取り組もうと思う。

インターネットで税について一通り調べた結果、まず税とは私の思っていた以上に種類が豊富であることが分かった。まずは私の生

活に最もなじみ深い消費税。次に

私の両親に関わりの深いであろう所得税。私がこの地域に住むために必要な住民税。その他にも企業が納める法人税、酒税やたばこ税、輸入品にかかる関税、自動車関連の三種の税など、その内容も含めて知ることができた。

しかし、それだけでは税について深く知ったとは言えない。今度は税の使い道について調査した。まず身近なところから調べていくと、幼稚園〜大学までの学校施設、図書館や公民館等の公共施設から、消防署や警察署、交番、市・区役所、病院や公園に至るまで、実に多くの施設が税金によって賄われていることが分かった。また、そこで働いている人々の給料

も税金から出ている。これについて知った時に私の脳裏をふとよぎったのは、災害時に出勤する自衛隊員の方々のことだ。自衛官は国家公務員に分類されるため、その給与はやはり税金から支払われることになっている。私自身先の九州北部豪雨の中心地である朝倉地区に住んでいるため、災害の恐怖は身を以って体験している。テレビで流れる家屋が流される映像を見ていると、「次は自分の家の番かも知れない」と思い心の芯が冷えるかのような悪寒がした。その時、上空を舞う自衛隊のヘリコプターの音が聞こえ、心の底から安堵に包まれ、「もう大丈夫だ」という安心が溢れ出した。それをもたらししてくれた自衛隊の方々が私たちの税によって動いて下さっているという事実は、とても尊いものだと感じた。

税金を知り、その意味について考えてみると、今まで面倒だと感じていた税金が、私たちの暮らしを陰から支えてくれるとても頼もしい存在だと思えるようになった。そして、未成年の私の代わりに納税の義務を果たしてくれる家

の人に対し、深く感謝すると同時に、誇らしく思えた。彼らは、微力なれども確かに納税という行為によってこの日本を支えているのだ。額に汗して働き、規定の税を納め、その見返りとして安全かつ平和な生活を享受する。国民としてのあるべき姿を体現した彼らの姿は、私の尊敬の対象たり得た。税を納めるといふことは、私たち個人が国家を支える手段であり、私は将来それを遂行したい。



★甘木税務署長賞

朝倉市立 南陵中学校

三年 飯田 彩香

「税が作る社会」

七月の初めごろ、福岡県や大分県、熊本県などを豪雨が襲いました。私が住んでいる所はあまり被害を受けませんでした。しかし、すぐ近くでは橋がこわれ、家が浸水し、たくさんの方々の方が亡くなりました。

そんな中、安倍晋三首相が豪雨の被害状況を視察するため、大分、福岡両県にいらっしゃいました。そして安倍首相は、被害自治体への地方交付税の繰り上げ交付を決定する方針を明らかにしました。私はこれを聞いて、地方交付税とは何だろうと疑問に思い、調べることになりました。

地方交付税とは何かを調べると、国から地方公共団体にわたされる税金で財源の強化や均衡を図るためのものでした。この繰り上げ交付は、平成二十四年、五年前にあった九州北部豪雨でも行われ

ていました。

私はこの事を知り、とても驚きました。知らない間に国から地方に地方交付税がわたされ、そして豪雨のときには被災した方々の復旧を支援する激甚災害の指定を早く行おうとしてくれたり、地方交付税の繰り上げを行って地域の復興をしてくれて国はすごいと思うと同時に税はとても大切だと思いました。

国の収入で租税及び印紙収入の額は約五十七兆七千億円で全体の六割弱を占めています。その中で税収の上位は所得税、消費税、法人税です。自分達がはらっている税金は国の収入となり、それが自分達の地域のためになっていると思うと税金はとても大切なものでなくなっただけでなく改めて感じました。税金があるから、救急車を無料で呼ぶことができる

し、道路も自分達がお金をはらわないで整備もされて、税があるから今の生活ができていますので自分達のはらっている税はどこかで、人のためになり、人を助けていること忘れずにこれから過ごしていきたいと思いました。

私は税の学習をするまでは、自分達のはらっている消費税など、どこで、どのようにして使われているのか考えたことがなかったけど、身近なことに使われて地域を助けていることを知って、税により生活が便利になり、豊かになり私たちが安全に暮らすことができ

ているのでこれからもしっかりと納めていって人を助けて、自分も助けられてもつと税が何の役に立っているのかをくわしく知りたいと思いました。



★福岡県久留米県税事務所長賞

朝倉市立 甘木中学校

二年 武内 智怜

「ふるさと納税」

リットがあることが分かりました。

みなさんはふるさと納税について知っていますか。私は、あまりふるさと納税について知りませんでした。そこで、この作文をきっかけに調べてみました。すると、ふるさと納税は全国一七八八自治体が行っており、たくさんの方

一つ目は、寄附する自治体や、寄附金の使い道を選べるということです。ふるさと納税は、自分が住んでいない自治体にでも何回も寄附することができ、「子育て支

援」「高齢者ケア」「環境保全」「復興支援」など寄附するお金の使い道も選ぶことができます。

二つ目は、地域の魅力を知り支援できることです。ふるさと納税により、各自治体が全国の人に地域の魅力を知ってもらうことができ、その地域の魅力に触れることで、応援したい気持ち湧き、その循環が地域を活性化する力になります。

三つ目は、その土地ならではの「お礼の品が届くこと」です。なんと、お礼の品は全国で十二万点以上もあるそうです。寄附した人もその土地の特産物を楽しむことができ、地域の産業や企業も発展したり、ふるさと納税のお礼の品がきっかけで有名になったりと、一石二鳥のみんなが得する制度だと思います。

四つ目は、寄附額に応じて税金が戻ってきたり、控除されたりすることです。寄附したお金の一部が確定申告をすると、その年の所得税と翌年度の住民税から差し引かれて戻ってくるそうです。

私は、ふるさと納税は、その地域の活性化や問題解決などに貢献

できるすごい制度だと思いましたが。そして、ふるさと納税は、寄附をした人も寄附してもらった地域もみんなが元気になる嬉しいものだと思います。初めは、ふるさと納税がどういうものなのか分からなかったけど、調べてみると寄附した地域を応援することができ、その地域の名産品がもらえて嬉しいことが多く、私も大人になつたらふるさと納税をしたいなと思いました。また、みんながふるさと納税のことを知り、様々な自治体に寄附すると日本の全ての地域が活性化し、日本がもっと明るく元気な国になると思います。だから、私は、このふるさと納税の良さをもっともっとテレビや地域でPRして、ふるさと納税が増えていってほしいです。



## ★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立 秋月中学校  
三年 松木穂乃果

### 「私たちの暮らしと税金」

みなさんは、「税金」が何のためであり、何に使われているのか知っていますか。

私は正直、あまり知りませんでした。だけど、この作文を書く際にパンフレットを読んで税金とは何か、何に使われているのか、どんな種類があるのかなどを知りました。

私は、「身近にある税」と言われると消費税だけだと思っていました。自分で払っているのは、買い物をしたときつく消費税だけで、他の税はあまり関係ないと思っていました。しかし、教育や公共施設にも税金が使われている、そのおかげで自分たちの生活も便利になっていくと知りました。教育面では、小中学校の義務教育で無償でもらえる教科書や、授業費なども国民の払った税金によって支給されていて、誰もが学

校に行くことができます。医療りょう面でも、7割ほど国が負担しています。そのおかげで、病気になったときに、金銭的な理由で治りようを受けない人は少ないと思います。公共の面でも、図書館を利用したりできるのも、税金があるからなのです。

私の住む朝倉市は、今年の七月に九州北部豪雨により大きな被害をうけました。その被害額は二千億円を超えたそうです。それを聞いたとき、そんな大きなお金は、どうするのだろうと疑問に思いました。資料によると、そういった大きな被害が起きたときのための税金が東日本大震災のあとからできたそうです。その税金は、国民の払う国税、地方税を高くすることでつくられました。でも、そうすると災害にあつてない人が災害が起こった地域のために

税金を多く納めなければなりません。災害にあつてない地域からすると、嫌なことだと思ふ人もいるはずですが、でも、災害にあつた人もそうなりたかつたわけではないと思います。災害は、いつ、どこで起きるか分かりません。だからこそ、起こつてしまつたら助け合つていくべきだと思います。

これからの日本は、今よりもっと少子高齢化が深刻になると予想されています。つまり、税金がたりなくなつていくということです。二〇〇〇年には、高齢者一人に対して働き手は、三人半ぐらいでしたが、二〇二五年には約二人、二〇五〇年には、およそ一人になるといわれています。税金がたりなくなつていく中、無駄なく

大切に使うていくことがこれからの日本には重要になってくると思います。

このように、私たちみんなが豊かな生活を送るには、税金が大切なのでみんなが税について理解し、納税をごまかしたり、脱税したりせず、きちんと払つていくことが大切だと思います。



★**甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞**

**筑前町立夜須中学校**

三年 大楠 美音

**「子どもと税金」**

私たちは、小学校、中学校とあたりまえに通っています。高校や

大学のようにお金を払っていません。教科書は新しい学年になると

あたりまえのように配られます。しかし、それはあるものによって成り立っています。税金です。税金ときいて私は、子どもには関係ない、大人になつて知ればいいんじゃないのと思つていました。しかし、この税の作文を書くためにいろいろ調べていきながら、私の考えは甘かつたと気づきました。

まず、私たちが通う学校の校舎や備品についてです。学校の大部分の設備は、市のお金が使われています。そのお金が税のことです。そして、市に対しては国から補助金が出ています。私も含めてですが、机に落書きをする人がけつこういます。税と学校をむすびつけて考えることは難しいかもしれません。ですが、私たちにもできることがあると気づきました。

それは、机や教科書の落書きをなくすことです。とてもあたりまえなことだと思いますが、できてない人は少なからずいます。税金でいただいているものを大事に使うことは、税金を大事にしていることだと考えました。

次に、給食についてです。給食にかかるお金は、給食費といわれ

るみんなから集められたお金と、税の補助で成り立っています。自分の好き嫌いを優先し、残食が増えれば、給食費や税金もムダになつてしまいます。なので、給食についても私たちにできるあたりまえのことを考えました。それは親や先生によく注意をされる、好き嫌いをしないこと、残さず食べることです。栄養バランスなどもしっかりしている給食をあたりまえのように食べれることに感謝をし、最後の最後までキレイに食べることを心がけることが必要だと考えました。

最後にまとめとして、私たちの学校生活は税金に支えられて成り立っていることを知りました。あたりまえに送れる楽しい学校生活も、調べてみるとこんなに税金に支えてもらつているんだと実感しました。このように、私たちの身近にあるものと税金の関わりについて調べることによって、私たち子どもと税金の関わりについても知ることができました。はじめに書いたように、私の考えが甘かつたことがわかり、考えを改めるとともに、私にもできる身近なこと

についても考えることができました。私は、税金に関して自分の身近なところから、もっと考えを深めていけるようにしたいと思いました。



## ★甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

朝倉市立南陵中学校  
三年 高良 百慧

### 「税のありがたみ」

私は「税」と耳にして、正直良  
い印象は受けません。なぜかとい  
うといろいろなところに税が関  
わっており、高額な税を支払って  
いるのではないかと思うからで  
す。

今までの私は、税についてあま  
りくわしく知らず、「税」といえ  
ば消費税ぐらいしか頭に浮かばな  
かったし、税のありがたみは分か  
りませんでした。

しかし、つい先日受けた租税教  
室で、税のありがたみをすごく感  
じました。税金は安くもないし損  
をしているように思えます。で  
も、私はいろいろな場面で税金に  
お世話になっていくことに気がつ  
いたのです。例えば、事件や事故  
が起きた際に、すぐに警察官や消  
防士が駆けつけてきてくれたり、  
私たち中学生が部活ができる場を  
設けられているということでした。

税金を納めていなければもちろ  
ん、学校も建設されないし、まし  
てや体育館もグラウンドもないと  
思います。今まであたり前に思っ  
ていた、事件が起これば警察官が  
来ること、事故や火災が発生すれ  
ば消防車や救急車が駆けつけるこ  
と、私たち中学生が何不自由なく  
部活動を行え、きれいに舗装され  
た道路で試合会場まで向かうこと  
ができていくことなど、思いかえ  
せばきりのないくらい税はいろん  
な場面で役に立ち、安全で快適な  
暮らしを私たちに与えてくれてい  
るのです。

このように、私たちは税によっ  
て平和な毎日があり、安全で何不  
自由ない暮らしができています。  
だけど、税のしくみはすべて円滑  
に進んでいるとは限りません。例  
えば、近年では少子高齢化が問題  
視されています。高齢者が増える  
ということは、税金が使われてい  
る医療や介護、年金などに使われ  
るお金が増え、減っていく若い人  
たちで増えていく高齢者を支えて  
いくことは難しくなっていくこと  
が予想されます。だからといって  
税金をさらに増やしていくと私た

ちの生活は苦しくなります。ここ  
が税金の難しい現状、そして、ど  
のように改善するかでどんな将来  
を目指すのかは変わってくると思  
います。

これらのことから、税金はいろ  
んな場面で私たちの役に立ってい  
て、平和で安全な暮らしを送るた  
めに欠かせないものだということ  
がわかります。しかし、問題点も  
あるので、将来を担う私たちが特  
に税について考え、税のありがた  
みを忘れず、明るい社会を目指す  
必要があると私は思います。そし  
て、私のように税に対する見方が  
変わる人が一人でも増えてほしい  
です。



★朝倉市長賞

朝倉市立甘木中学校

二年 早野 瑠唯

「可能性を広げる新しい道」

私たちの生活がもつと豊かで安心して過ごせるように、税金は使われているということを知りました。

最近、私の家の近くに渋滞の緩和を目的とした道が開通しました。長い年月をかけてようやくできたその道は、歩行幅が四、五メートルと広く、歩行者も安全に通行することができず。この道ができる前まで、私は、市の中心にある駅の近くの習い事場所まで、遠回りをしなくてはなりませんでした。おまけに信号も多く時間を要するし、横断歩道を渡る時は、先を急ぐ車がすごいスピードで目の前を通り危険を感じることもありました。

しかし、新しい道ができた事で今までの道の渋滞も減り、交通事故も減りました。と、とても便利で、安全になりました。もう一つ、新しい道ができたこ

とでいいことがありました。それは、歩道で散歩をしたり、走ったりと利用する人が増えたことです。歩道が広く段差もないため、子供から高齢の方まで地域で暮らす人の通りが多くなりました。

歩いているとお互いあいさつを交わします。あいさつをすることで、同じ地区に住んでいる人と仲が深まりいい関係が築けると思います。だから、もつと歩く人が増えて市みんなが支え合えるような関係になってもらいたいです。そうすれば、市も活発になり、この市を気に入って引っ越してくる人が増え、お店がもつと増え、この市に遊びにくる人も増えて楽しい市へにもつながると思います。けれども新しい道には街灯がとてもなく、周りに田んぼが広がっていて夜に歩くことは危ないです。だから、街灯を増やしてもら

えればもつと安心して通ることができると、防犯にもつながると思います。

このように、新しい道で可能性が広がっていくのはおもしろいと思いました。この道は、私たちの税金でつくられたと思うと、税金はとてもいいものだと思いません。私は、この道をとおして、考えることができました。

税金は他にも、医療費を安くしたり消防士さんが倒れた人を助けたりしてくれたり、豊かで安心した暮らしができるようにしてくれています。今まで私は、税金がどのよ

★筑前町長賞

筑前町立夜須中学校

一年 角田 結梨

「私たちと税金」

税金。私は、今まで税金に対してあまり関心がありませんでした。

「税金はまだ子供の自分にはそこまに関係ないだろう。」と思っていたし、最近まで私は税金が何のためにあるのかをくわしく知りませんでした。税金に対して何となくの認識、

うに使われているかを深く考えることがなかったので、払うのもつたいたいという気持ちがありました。

これからは、自分も周りの人も安心した暮らしができるようになるということにつながっていると感じながら、税金を気持ちよく払いたいと思います。



考えで最近まで暮らしていました。

しかし、私が税金についてしっかり考えるようになったのは突然の出来事からでした。それは、今年7月にあった九州北部豪雨です。短期間にわたり、家や自然を破壊した九州北部豪雨。私達が住んでいる

地域はほとんど被害はありませんでしたが、同じ朝倉市の方々がたくさん被害を受けました。豪雨のあと、私は何度も朝倉市に向かっているであろう消防車などを何十台も見かけました。その消防車の中には福岡の車だけでなく山口など、県外から支援にきている車もありました。税金にそこまで関心がない私でしたが、この光景をみて、「税金を一人一人が納めているから、何かあったとき県境を越えてたくさん消防隊員の方々が助けに来てくれるんだ。」と思いました。私達の身近にある消費税がどんどん上がっているから、税金に悪いイメージがありました。一人一人が毎日を過ごしてはいますが、一人一人が毎日を過ごしてはすくすくするには、税金は納めなければならぬものだとこの九州北部豪雨から感じました。

この出来事やこの作文をきっかけに、私は家族や資料などで少しでも税のことを知ろうとしました。すると、私はとても驚くことを知りました。日本は他の国々に比べて、とても消費税が少ないということです。日本は今八パーセントですが、ある国では二十パーセントを超えていたりしました。消費税が高い分物価が

高く、過ごしにくいんじゃないかと私は考えました。しかし、友達に聞いてみると消費税が高い分、私達が生きていくために必要な施設などにあてられているから、消費税が高くて、過ごしやすくなっているということがわかりました。今まで私は「消費税が高いのは嫌だなあ。」と考えていたけど、「実は消費税が高い方がいいのでは・・・。」と考えが変わりつつあります。

つい最近まで関心がなかった税金だったけど、知れば知るほど自分たちと深くかわわっているものなんだとわかりました。これからの社会を築いていくのは、私達です。だからこそ、税について学習し、何かを感じることが、これからの日本を築く第一歩ではないかと思えます。私たちが税金。しっかりと税金に向きあっていくべきだと私は考えます。



## ★公益社団法人 甘木朝倉法人会 会長賞

朝倉市立 十文字中学校  
三年 中島 璃香

### 「ふるさとへの応援」

「税金って面倒くさい」

よく、消費税だとか、所得税だとか、法人税だとか、色んな「税」について耳にします。けれどどれも難しく、私には面倒くさいものというイメージでしかありませんでした。しかし今回、税の作文を書くにあたって色々調べてみると、税がいかに身近であり、そのゆえがどれだけ私達の生活に役立っているかを感じました。その中でも私が特に気になったのは、「ふるさと納税」というものです。以前私の母もしていて、その響きにどんなものかと詳しく知りたくなったのです。

ふるさと納税とは簡単に言うと、税金を納めるものではなく、ふるさとへの「寄付金」のことです。このふるさと納税という名の寄付金は、自分が住んでいる地域だけでなく寄付する自治体を自由を選ぶことができ、寄付をする事によって寄付し

た金額とほぼ同じ額の所得税や住民税が減税されます。さらに、ふるさと納税の一番の特徴であるのは、寄付を受けた自治体の多くが特産品などの特典を用意している事です。中では高価な果物や海産物をもらえる地域もあります。

しかし、この返礼品だけを目的に納税する人が増え、本来の「ふるさと納税」を見失ってきている状況があるとニュースで聞きました。どこの地域の返礼品だったか忘れた、というような人もいます。また自治体側も「自分の町に寄付してほしい」という思いから、自治体同士の競争が過熱している一面もあるようです。このように、ふるさと納税の人気と共に、寄付金、目的のあり方について少しずつ問題視されている今、私はこんな話を耳にしました。今、私の住んでいる朝倉市は、今年七月に起きた九州北部豪雨により復



興作業が続いています。そんな中で、朝倉へ「返礼品はいらさないから。」とふるさと納税をして下さっている方達が沢山いらっしゃるそうです。これを聞いて私は嬉しく思いました。「ふるさとを思つて、ふるさとを応援する」。本当のふるさとへの「寄付」のあり方を忘れてはいけません。ふるさと納税は、地域と人を結ぶ温かいものなのですから。

# 税の標語

全国間税会総連合会 入選

活躍中  
あなたが払った  
消費税

三輪中学校 三年 井上 晴陽

活気ある  
社会を支える  
消費税

秋月中学校 三年 藤井 拓実

災害時  
みんなの税が  
被災者救う

南陵中学校 一年 空閑 大輝

未来への  
希望のかけ橋  
消費税

夜須中学校 三年 吉永 芽生

安心の  
裏で支える  
消費税

夜須中学校 三年 一木 里菜

甘木朝倉間税会が募集した「税の標語」です。本年度は管内中学校5校から一四三点の応募がありました。

# 租税教育活動を やっています

甘木朝倉地区税務連絡協議会では、構成団体が協力し、税知識の向上及び納税意識の高揚を目的にさまざまな活動をおこなっております。



法人会女性部会による小学校での租税教室



法人会青年部会による小学校での租税教室

## 甘木朝倉地区 税務連絡協議会とは？

### ★構成団体は？

- ・ 公益社団法人甘木朝倉法人会
- ・ 甘木税務署管内青色申告会連合会
- ・ 甘木税務署管内納税貯蓄組合連合会
- ・ 朝倉地区  
税務相談所運営協議会
- ・ 甘木朝倉間税会
- ・ 甘木税務署管内酒類業懇話会
- ・ 九州北部税理士会・甘木支部

### ★何をしている団体ですか？

- ・ 一般の方々の税知識や納税道義の向上を目的とした様々な活動を行っています。
- ・ 中学生や高校生の税に関する優秀な作文を表彰する等して、租税教育の支援をおこなっています。